

## 報告(1)

# 展示：「アメリカンボードと日本伝道」

2011年11月1日から2012年1月27日まで図書館本館1階の史料室閲覧室において展示「アメリカンボードと日本伝道」を開催しました。

この展示は、2011年11月1日に召天100周年を迎えた創立者 Miss Eliza Talcott を記念する展示「創立者イライザ・タルカットー召天100年を記念してー」が図書館本館閲覧室において開催されたのに合わせて行なったものです。図書館の展示はタルカット先生の生涯をパネルと書籍等の資料を用いて紹介した企画展でした。史料室では、創立者タルカット先生を日本に派遣した海外伝道団体 American Board of Commissioners for Foreign Missions (通称アメリカンボード)とそれに関連するものを紹介するパネルと物資料を展示しました。

今回の展示にあたり、同志社大学同志社社史資料センターのご協力をいただきました。2011年4月1日から7月31日まで社史資料センターで展示された「アメリカン・ボード設立200年 まかれた種ー神戸女学院と同志社ー」の際に使用された展示パネル10点(内2点解説)をお譲りいただき、展示に活用させていただきました。同志社と神戸女学院は、アメリカンボードのバックアップのもとに1875年、京都と神戸に創立されたミッションスクールであり、深い縁のある学校です。ここで改めてご協力に感謝申し上げます。

## 展示内容：パネル

### ① ヘイスタック・ミーティングの碑(マサチューセッツ州)

アメリカンボード設立の契機となった祈禱会の記念碑。

### ② アメリカンボード設立総会会場の牧師館(ファーマントン)

### ③ アンダーグラウンド・レールロードの建物(ファーマントン)

タルカット先生が学生時代をすごしたミス・ポーターズ・スクールのす

ぐ近くにあります。現在はポーターズ・スクールのアドミッション・オフィスになっています。

- ④ アメリカンボードの伝道地域
- ⑤ 開港神戸之図(1868年)
- ⑥ アメリカンボード日本伝道団年次総会記念写真(1879年6月)
- ⑦ 同志社英学校第1回卒業生(1879年6月)
- ⑧ 英和女学校第1回卒業生(1882年12月)
- ⑨ D. C. グリーン宣教師
- ⑩ ジョージ・オルチン宣教師

#### 展示内容：展示品

- ① オルチンコレクション(覆刻版)2冊
- ② 幻灯機用ガラス製スライド  
聖書物語の一部、讃美歌210番「来る朝ごとに」楽譜
- ③ 市川栄之助筆写聖書(写真)
- ④ 伝・グリーンの説教台

摂津第三公会(現・摂津三田教会)でグリーン宣教師が使用したといわれていた説教台。2011年11月、摂津三田教会からご寄贈いただきました。

(佐伯 裕加恵)

## 報告(2)

### 「ヴォーリズ建築から神戸女学院を学ぶ」勉強会

2012年1月21日(土)13:30から図書館・史料室主催で、教職員・学生を対象にしたヴォーリズ建築を通して神戸女学院の精神を学ぶ勉強会を文学館3室で開催しました。

近年、ヴォーリズ建築は注目を集めていますが、神戸女学院はキャンパス全体がヴォーリズの設計によるもので、学校建築としては最高傑作の一つとも言われています。また、移転79年を経て、未だに移転当初の原型を留めているという点でも高く評価されています(中庭を囲む4棟と音楽館は国の登録有形文化財に指定されています)。

神戸女学院のキャンパスは確かに外観が美しく、訪れる人に感動を与えているのですが、このキャンパスが真の意味で美しいのは外観だけではなく、その設計に反映された設計者の理念と、建築を依頼した学校側の教育理念がこのような形をとったという点にあります。今回の勉強会ではそのことを確認し、より深く知るための入口となることを願って、元ヴォーリズ建築事務所所長で、永年校舎のメンテナンスに携わり、その後の校舎増築も行なってきた石田忠範氏に講師をお願いしました。

休暇中の開催ということで、あまり学内広報もしていなかったこともあって、参加者はそれほど多くありませんでしたが、学生の参加もあり、予定の時間を越えて熱心に石田氏の話しに聞き入りました。

この講演から見てきたこと、再確認できたことを一言で言い表すとするなら、それは「神戸女学院の校舎は聖書のメッセージを伝えている」ということです。

設計者ヴォーリズは神戸女学院のキャンパスを設計するにあたって理念を述べていますが、その中で「学舎が教育する」と明言しています。神戸女学院の

学舎は若い女性たちを大切に「もてなす」、女性を「育む」ように作られています。このことをこの建物を使う私たち一人一人が見出すことそのものが「教育」の意味にはかなりません。この発想の原点は聖書に書かれている「識別すること、見分けること」(フィリピの信徒への手紙1章9節から10節)から来ています。

また、発注者である学校側から見てみると、このことはより明確になります。神戸女学院のスクールモットーは「愛神愛隣」です。当時院長であったデフォレスト先生はキャンパス完成時の年間標語に「汝らは神の建造物なり」(コリントの信徒への手紙I 3章9節)を選びました。この聖句からは次のようなメッセージが読み取れます。「愛神愛隣」の「愛神」とは、人が神を愛することではなく、神が人を愛しておられることを知ること、或はそのことに気づくことであって、その結果「愛隣」、つまり隣人を愛することが可能になるということ、この学舎を通して知ることができる、ということです。

つまり、神戸女学院のヴォーリズ建築が語っていることは、私たち一人一人が「大切にされている」と感じることはないのでしょうか。

(佐伯 裕加恵)